

都名所圖會

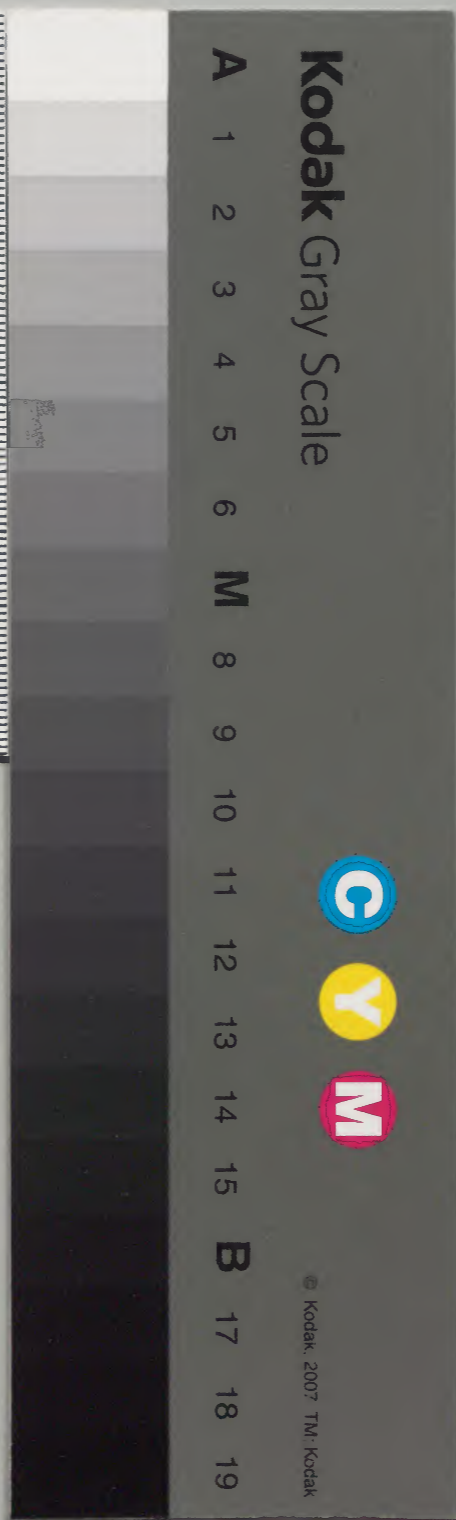
平安城
再刺

二

				和書門類
一	一	一	六五九	
冊	架	函	號	

庫文閣内			
七二函	一	六五九	和書
一四架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 8659
冊數	11 (2)
函號	172 176



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

都名所圖會卷之二目錄

平安城尾

官者殿系

大雲院

座頭積塔

宮川

六波羅蜜寺

寺

五條橋

塔竈井

太子堂

萬年寺大満宮

橘行半御塚

祇園御旅所

祇園會館

累河原夕涼亭

建仁禪寺

姿見の池

晴明社

首途八幡

奉覚寺

新善光寺

竹林院

市中金光寺

四條乃場金蓮寺

同山鉾圖

同芝居

蛭子社

阿古屋塚

十禪寺社

御影堂

塔竈上徳寺

蓮光寺

鬼頭三皇

延壽寺

十住心院

手洗水圖

目疾地藏

六道珠皇寺

焰魔堂

若宮八幡

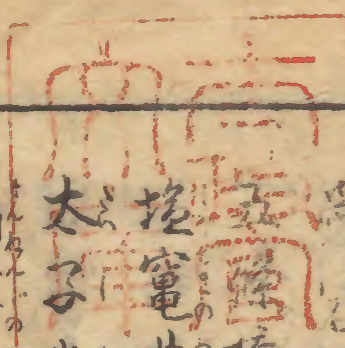
鏡の池

塔竈社

長講堂

等善寺

久敷塚



籬の池

佛光寺

固幡茶師

諏訪社

一音寺

新住吉

天道社

左國寺加藤清正

古醒井

東殿

成真寺

芥根水

道祖神

藍染川

神明宮

繁昌社

新玉津湯社

壬生寺

荒神社

所左乃松

人丸社

興正寺

松明殿

判官塚

月見橋

稻若所

花園稻荷社

大原社

朝日宮

菅大長社

同和玄圖

化粧水

石上宮

醒井

常樂寺

稻荷奈礼忌

宇賀社

稻荷社

藏王森

後成郷社

白天神

神明宮

五条天神宮

蛭子森

板垣子

又雀寺

西本願寺

東本願寺

金光寺

藪内沼智家

不動堂

寛井石

春日森

古井社

三鈷松

六孫王社

福大明神森

古津塚

清盛旧地

松子坊松

誕生水

人丸塚

宋守長老

住吉社

死生門旧跡

滿仲公延生地

清原頃城町

栗乃社

東寺

大通寺

欽喜森

十月廿日(廿)の誓(ちか)い
 とくしよ(徳)系(系)極(極)乃
 官(官)去(去)殿(殿)ふ(ふ)清(清)を(を)群(群)
 刺(刺) 御(御)園(園)鴨(鴨)川(川)の
 俗(俗)女(女)も(も)あ(あ)は(は)来(来)て
 ろ(ろ)い(い)を(を)そ(そ)ろ(ろ)い(い)又(又)
 其(其)夜(夜)より(より)誓(誓)え(え)と
 ま(ま)る(る)は(は)神(神)へ(へ)の(の)
 る(る)し(し)入(入)る(る)や

暖(ぬ)湯(ゆ)と(と)ら(ら)や

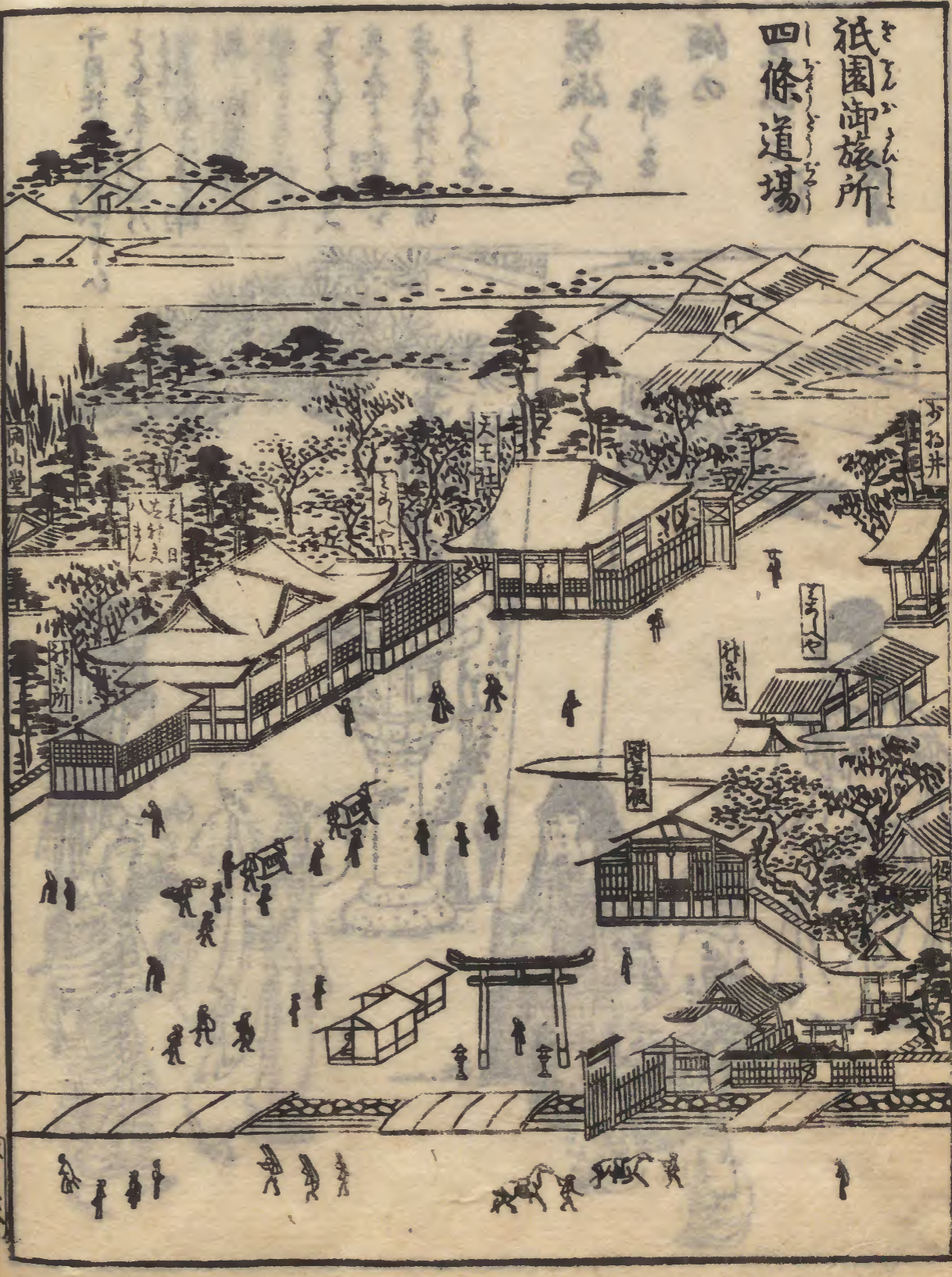
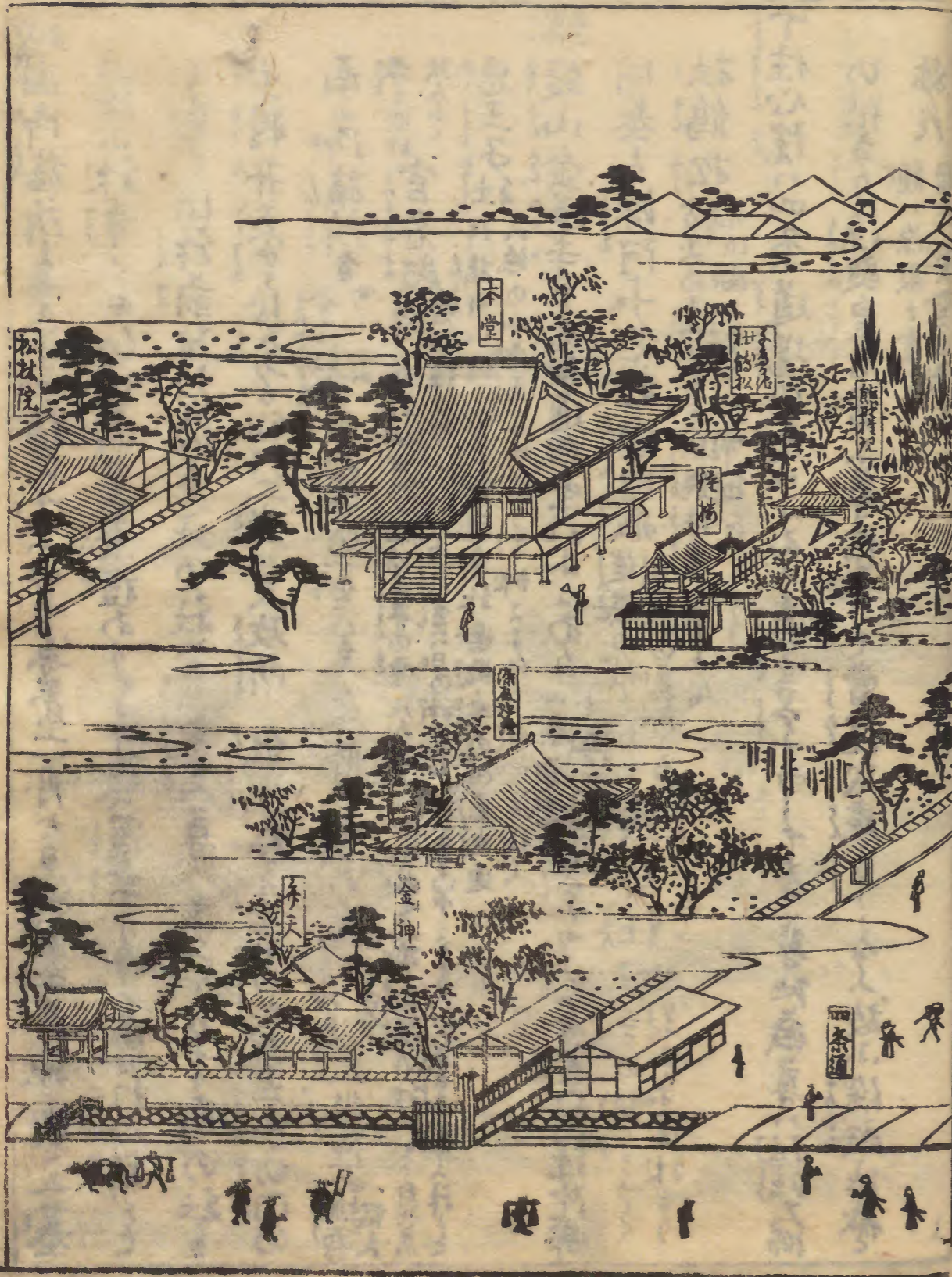
都(みやこ)と(と)

酒(さけ)の

あ(あ)ら(ら)と(と)湯(ゆ)

其(その)角(つの)





祇園神旅所と西条系極の辻あり毎六月七日祇園會神樂之基
 け所小神幸一のしは十四日小祭禮ありて本殿還幸一々兩日れし鉦と
 ともかくけ神前引後と北の社の素戔尊八王子と南の社を
 少將井天宮なる初れ一坐入政所 統してひり一鳥丸通五条坊門の
 南小神旅所者 今入政所 少將井の一坐入鳥丸二條のふあり 今お井 一坐社 鳥丸
 春日明汗 官者殿 今所神旅所 佐方正尊の靈なるしんふを祀之又誓生掛の神々十月廿日
 悪王子社 所旅町小例あり祇園會神樂臨幸の時鳥丸通
 錦綾山金蓮寺なる極通四条れ山あり 四条道場時宗ありて本殿阿弥陀佛
 開基と津阿上人之初徳地藏 運慶の仏と初ハ 熊野社 當寺の鎮守とく
 杜鶴松 方丈の東ふあり杜鶴松陽とまの付 魁け樹と至りて神祀れとまり 時宗の御褒れあり
 十住心院ハ四条道場の南口あり真言宗ありて本尊地藏尊ハ弘法大師
 の化まり漆殿皇后常小尊信ありて當院が建ちたりと故小漆殿地藏
 稱 類ハ漆殿と書して 僧正賢智の社と

大雲院



龍池りゆうたにと大雲院だいぐんいんと京極きやうごく四糸しじに南みなみあり浄土じやうと宗そうありて智恩院ちいんいんに屬ぞくして年尊ねんそん阿
彌陀佛あみだぶつ（惠心僧都ゑしんそうだう）れ住すまりて人因基にんいんきの貞安ていあん上人じやうじんありて人安土論にんあんちろんの時とき淨家じやうか八
女やありて信長のぶなが公こう厚おほく帰依きゐしむし八幡やわた寺てら建立たうけんしと貞安ていあんありて
信職しんしやくの時とき信長のぶなが公こう浄父じやうふ子こ明智あち秀吉ひでゆきを為なして生書なまがきありて貞安ていあん上人じやうじん傳つたへて
多おほくる系けい初はつめ登のぼりて二条にじやう馬ま丸まるれ名なるて一いつ座ざ室むろ返かへりて人ひとをこめて浄善じやうぜん投なりて吊つり金かね其その後のち
秀吉ひでゆき公こうれ命いのちやめて天あまの末すえ織田おだ信忠のぶただ郷きやう追福おひつくだのたを當院たういん改かへりて草創そうそうしむ
郷きやうの法ほふ多おほくる大雲院だいぐんいん殿でん二品にひん羽林うりん仙せん巖いわ居士けしと称なづかひ當院の號より出でて信長を信忠
信長のぶなが公こう安土やすと浄土じやうと城じやうの付つ貞安ていあん上人じやうじん七種しちしゆの青物あおもの御ご場ば今いま當院たういんの什じ資し之の中ちゆう
不法ふぽう然しか上じやうのの一いつ牧まき記き清文じやうぶんあり是こゝ一いつ休しゆう和尙わじやうれあり貞安ていあん増ま後ごあり國くに遠とほく大師だいし
のの後のち向むかひ画ゑあり真讚まぜん小こ曰いは
達たつ廣ひろ悟ごくくくくくくくくくく胸むねのの事こと
九く年ねんもてせしむるまをむる多おほくれ旅たびの時とき法隆寺ほつりゆうじのの一いつ聲こゑ
一いつ休しゆう判はん

祇園會ぎげんかいのの式しきにに杯はい每まい歲さい五ご月げつ朔しやく且かつ致齋ちしやうありて四糸しじ浄じやう極ごく町ちやう小こ村むらとる是こゝ一いつ乃なん奉ほう
養やうの旧地きうちあり同どう廿日にじふにちの吉符きちふ入りて鉢はちの町ちやう小こ難なん子こ初はつあり神樂かみがらは同どう晦日みありて
御ご近ぢん柁せ灯とう煉物れんぶつの行ぎやう粧しやう整せい々々とて洛東らくとうの娘むすめは五ご月げつ朔しやく日にち鉢はちの児こ祇園ぎげん系けいとて
系物けいぶつありて馬ま具ぐ行ぎやう烈れつ花はな簾れんとほく高貴かうきの住すまみ初はつあり五日ごにち淨じやうの
引ひ初はつ日にちの早はや夫つまありて六角堂むかくだう小こ村むらありて鉢はち行ぎやう烈れつ前後ぜんごの園いん取とりて此こゝ日にちの夕ゆふとて
音ね宮みや鐃やう々々とて鉢はちとて糸いと日にちのぬくぬくとて柁せ灯とうとて連つて夜よ更さらとて種ねありて
貴き紗さ群ぐん集しゆありて方かたあり七日しちにち祇園會ぎげんかいとて外そとの村むらありて鉢はち烈れつとて四糸しじ通とほり
系極けいごくと南みなみへ松系しょうけい西にしへ引ひ流りゅうとて日にち神樂かみがらの系けいれ末すえの系けいありて感かん神院かみいんより南みなみ
旅たび所ところへ神幸かみゆきありて八日やちにちより十四じふしち日にち鉢はちの堂だうありて十二じふに日にちれ初はつ園いん取とりて十四じふしち日にち
れ鉢はち三さん條じやう通とほと東系とうけい極ごくと南みなみへ四糸しじ松系しょうけい西にしへ引ひ流りゅうとて神樂かみがらの系けい式しきにに淨じやう極ごく所ところあり
四糸しじ松系しょうけい西にしへ東洞院とうどういんより神樂かみがらの南みなみへ引ひ流りゅうとて後のちありて二條にじやう西にしへ旅たび社しゃとて同どう題だい
二系にけい松系しょうけい東とうへ還かへりて同どう十八じふはち日にち小こ村むら浄じやう洗せんとて晦み日にち小こ村むら祇園ぎげん鴨かみ川がわののかありて
竹たけ葦あしれ如ごとく群ぐんとて鉢の圖に二で奉りて全國創系古實の末より祇園會總祀と
くりてたありて略りやくたり



會園祇



山鉾の式一みへち
 名し異みしては流の定
 舞大舎人の金張所
 の跳除家をに車月流
 ね造り八根舞舞かど
 へありて莊も鹿微あり
 今も和漢の錦鋪さし
 七室と飾をけ粧廣ま
 して天下第一の奇観と
 して

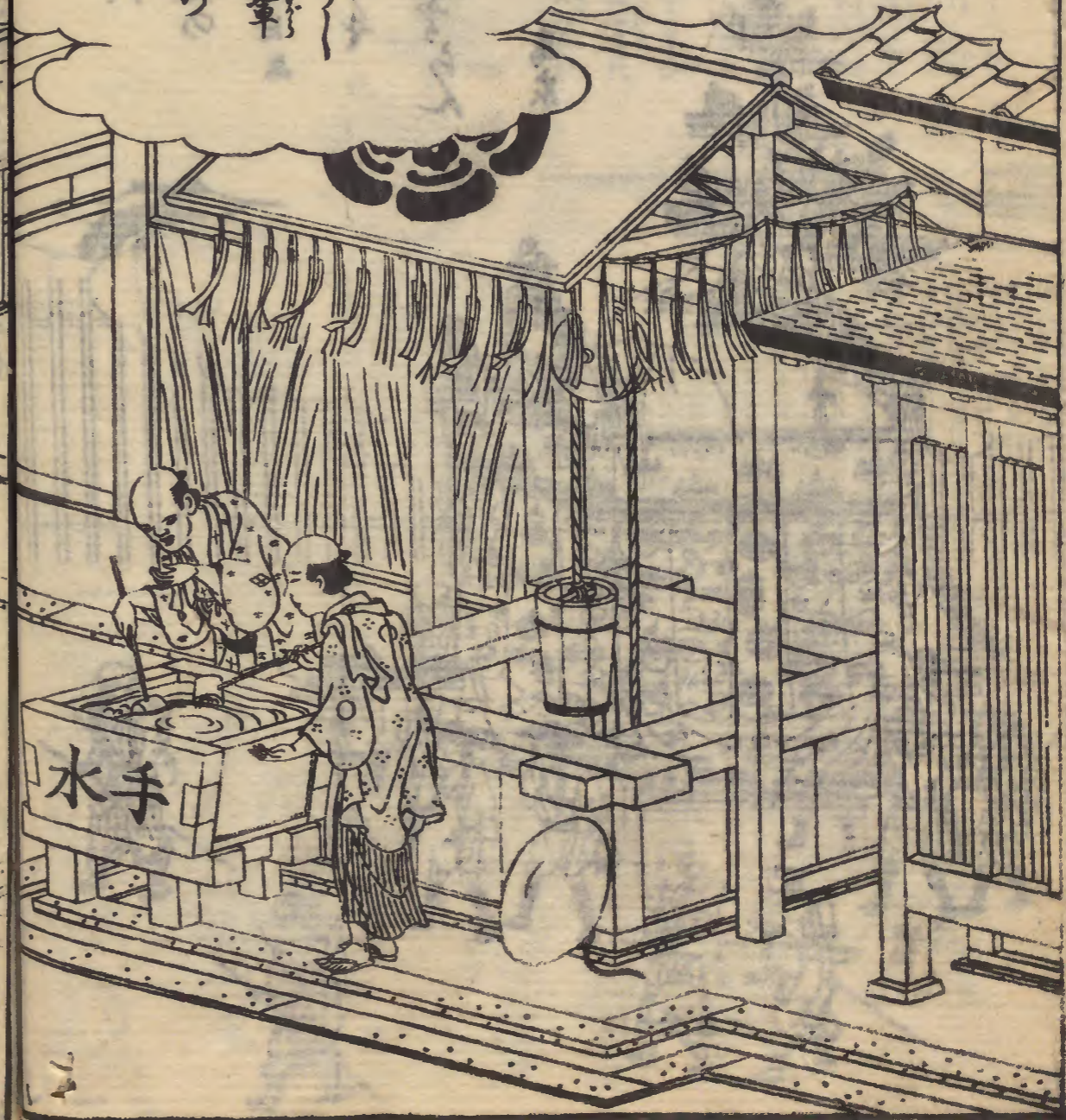


山鉾
 かさたさん
 山多れ尾の
 長た日五
 神の園とせ



馬家

手洗あり
 馬丸通沸
 小治れあり
 ありむり
 大政所町
 神樂乃
 所旅所あり
 糸消の輩
 ありあり
 ありあり
 け創あり



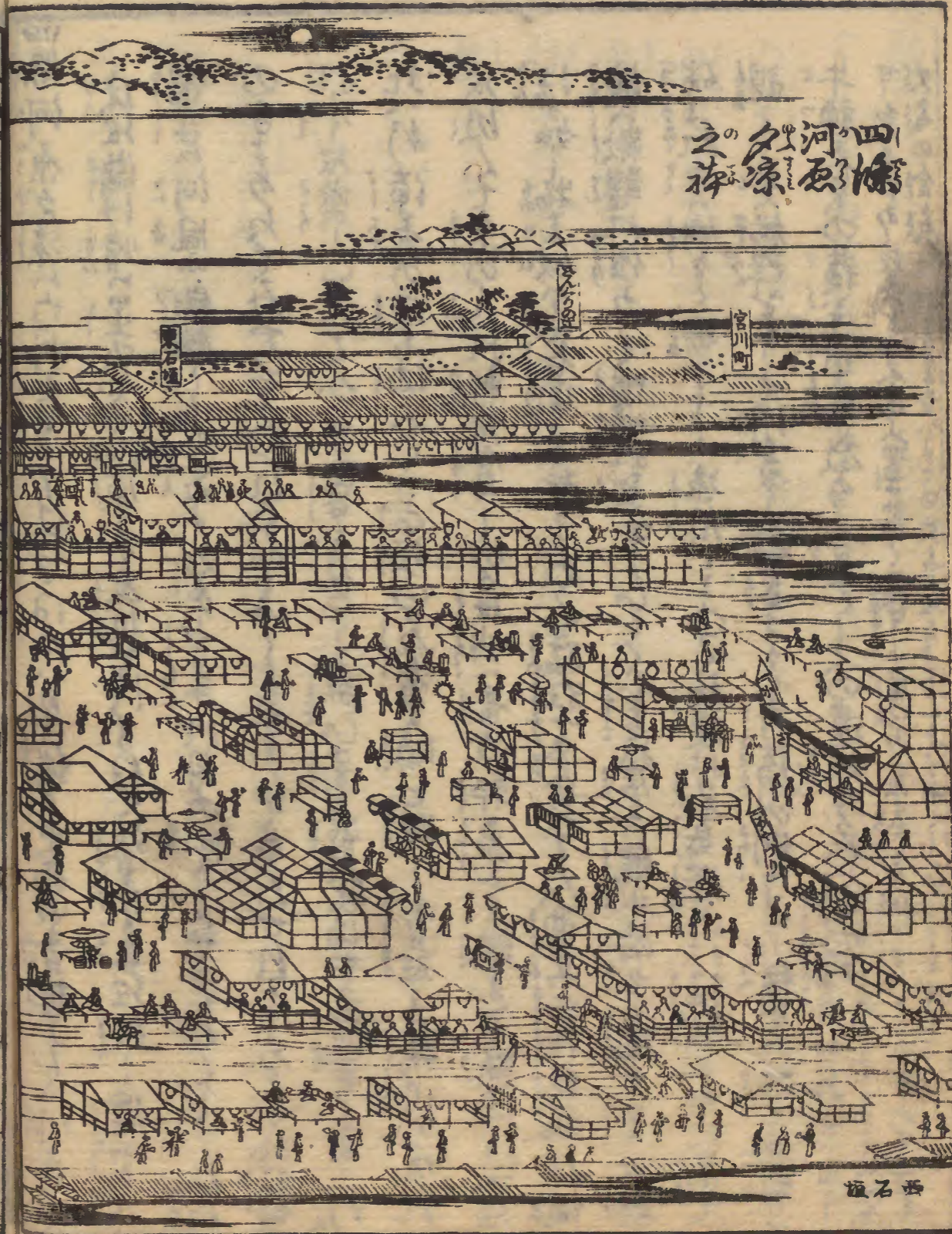
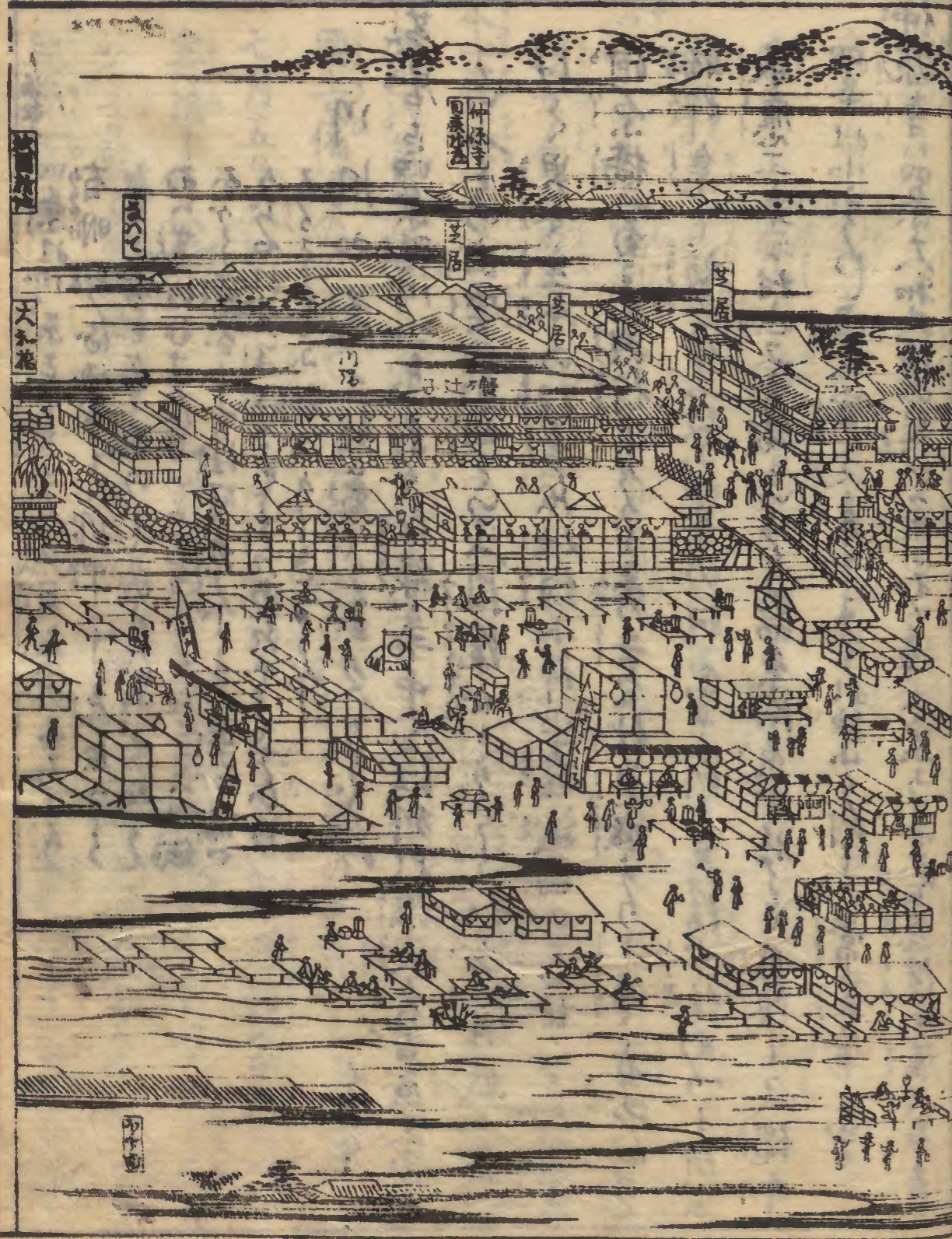
今も六月
 七日より
 十四日まで
 井坂
 新
 水所
 凄冷
 清泉にて
 比
 水取服
 疫



座頭積塔より人王五十八代光孝天皇の娘宮雨夜内親王所御旨し
 らる中への女は盲者振立てし所御せむる事多し賦さぬの宮となす所御
 小任のさるゆへ所御さるし風儀たりそれより男子の盲人も宮振振と
 なると稱し檢校勾當の宮へゆるといひ内親王より遺傳あり
 毎奉二月十六日は娘宮の御祥忌なりは座頭集まらぬといひ尊親
 拜し東北河原ふら石振積で報恩とすは座積塔より又六月廿四日も
 集會とすは座積の納涼よりなりとす則し座積塔より又六月廿四日も
 今の高倉通五條坊門の山に集會所ありし二箇の積塔ありは集會
 琵琶坂彈止て平家坂よりさるるこれ四例とす此法事は振動なり
 又雨夜内親王の御心くられし後ハ寒氣のさるるは座積塔より
 ぢりぢりたる浴場のた女牛の長髪とて書りてさるる今も長髪のおくつ
 ぬいへるありさるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より
 ありとす

雨夜内親王の御心くられし後ハ寒氣のさるるは座積塔より

四條河原久遠の六月七日より始り十八日終る東西の青樓より川島に
 床張儲け燈の星の如く河原の夜机とすはし流るる真夜夜は濃氷乃
 帽子は河風扇翻りてさるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より
 のさるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 れ今も夜盛といふるとして坐落す乃らざる粧い圓舞舞ははやれ董と南へ行
 北へ行滝茶の店も休むといふ頃のは香と酔と醒し香煎の鴨川の流る
 流りてさるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 ながりてさるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 はが如物さるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 渡りかへりて嘔吐せりいさむをた店に罷水溜りと候て暑夜避
 硝子に音の珊珊と候して流るるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 観とくは流るるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 牛頭天皇の御孫將養ふおのり遺傳なり
 昔大内重長は時を以て一
 時を以て一とすは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す
 燈の金を振越さるるは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通すは座積塔より通す



四河原
夕涼
之祇

西石垣

西教集

四條の川系とて夕月夜のありあり
有明の月映すく川中より夜をさす
夜をさすく酒のそりのあそびを
わの帯のむすしめいりくたのこ
かかき着るして法師老人のふた
りりやれずみふくたのこをさす
あつとくふ都のりきさるる

川風や流るるをさすくをさす

芝居を四條鴨川の東より永祿年中江別れ浪人名吉屋二首
つづきの出雲の國とつづ風流女とくつづいふ舞妓とくつ
けく男女立合の狂を依仕組小孫の本林祇園の南林ありし
河原橋のむと興行しつづ秀吉公伏見城より上洛しつづ
物群集し坊ふ乃く故ふ四條の河原より中絶ありし所
兼應二年村とく湯とつづの四條河原中絶し再興し又繩
四條の川より遠く寛文年中今れ地よりつづ常芝居とあり
仲源寺の四條大和之後の異の角あり浄土宗より智恩院に属し本尊

地藏菩薩の土中出現の尊像あり世の人目疾地藏と稱し

病平愈し祈禱とてい靈驗あり實に雨止地藏之住來れ人驟雨の時堂

宿りしと脇士小惠心僧都に依りて阿彌陀佛に南に安んじ

の他北千手記する北の方ふふ業師弘い方ふふ安んじ弘法大師

宮川とつづ鴨川四條より南に別號ありつづけさるる高王に朝

後世人の家建續て町の名とあり

東山建仁禪寺の和太後四條の南あり門前通四條より南と建仁寺

五ふれ身二位りて用基の千之國師葉上僧正諱の榮西とつづ

國吉備津のふりて賀陽氏之陸別れ刺吏貞政の曾孫とて建保三年

七月五日寂し土御門院に勅預りて征夷將軍源頼家御教に

寄附しつづ建仁三年休盛とつづ造栄一勅預りてつづ

公て寺號とて佛殿に本尊の釋迦佛脇士の如葉阿難あり同山塔

興禪護國院と號して東に五あり榮西國師に廟塔あり又國師



建仁寺

歸朝の時携りて其提樹の當院あり今繁茂して河原院持の佛殿の小
 小二の待堂あり東に大鐘あり之足融を合上條河原小殿舎張建の以後佛
 閣と号し河原院と号は所あり鐘之荒廢の後鴨川七条の南に深淵
 小流に榮西國師足公窺秘の官吏小訥を求て當寺に掲けは鐘は漸次
 引上り河原不動に統々國師はとうとういして力者は音頭榮西唱又國
 師は弟子長首座と号して引なして教の力者大勢足公復聲しておとく
 と當寺ふらんと今重き如引は多夜中て運送するは所謂鴨川七条の南二町
小谷の斷りありは鐘の沉あり一所之實は鐘の斷り
 又は鐘毎夜子に時より九十聲擗之晨鐘は十八聲合て百八擗之昔は陀羅
 尼經誦と撞し心此鐘は多辰稱して建仁寺に陀羅尼の池は法水地と
 號し中門と久立門と号す平家北一門門脇教盛鐘
鐘の門あり 禪居房は八摩利支天と安
 至及加曆二年唐土より將未せ靈像之應驗新うて
常宿人色 妙徳石方々の
燒香橋
 の石橋樂神廟を國師は劫法より當に鎮守之中ま吉備津まのま三福
安國土塔 織田有樂塔正徳院あり則有教翁
の物あり

愛宕寺



六波羅寺



五郎寺



蛭子社に建仁寺門前あり多所蛭子命堂西園師幼衛しゆあり

建仁寺境内の形

建仁寺境内の形

寺覺山念佛寺の六波羅密寺あり

真言宗よりて開基弘法大師中興より千観内供に本尊観世音菩薩あり

あり石の脇に毘沙門地蔵尊千観内供自他の像を安んじし

相別の刺中納言頼顯卿の子の幼名坂千観丸より後長しと

内供の室に入て出家し顯密の碩学ありて二世の回常より

修より本止まらば故念佛上人より又堂内小地蔵尊安んじし

像と伏地蔵と称して毎歲正月二日誦讀して法人火伏のれ

と天狗宴と稱し車寄松に松上軒と寄りて

曹陀洛山六波羅密寺の六道の西あり真言よりて智積院に属する

十一面観音の立像長き空上人の作也

村上帝清空王曆五年小疫癘時行て死るとの報より

憐み十一面観音の像を作りて車小洛中坂自願あり

本尊之観多小供とる曲系坂疫人ありて一日小平愈に村上帝あり

はりて右例と毎歲之小服ありて万民今には例と

號し年中七夜とありと北の方の地蔵尊安んじ

と云は康頼の賣物集小曰東より食た女ありて

乃借まらば家易きと云はるれと云はるれと云はるれ

まよりしては地蔵と云はるれと云はるれと云はるれ

南に方系師佛と安んじ傳教大師の作也

此像あり次女見はし上人よりて安んじし

可古屋塚

本堂の小屋あり系坂の女師古屋塚と云は

空上人の作也

孫院ののむ空上人の作也

上人ありて

世の中りてあはれるの雨やうらつかのほのぼの來世ありたり 聖上人

一尊もあまの佛の人のまじりたるのほのぼのあり 全

瑞皇寺の建仁寺の南松系通小あり 本尊茶師佛の傳教の師の他ありて

開基の慶俊僧都中興を弘法大師 眞堂より小野堂に像と安置され

眞堂二通 瑞魔堂の東に方小あり 定後七月九日糸指に人け縁辰極

て聖靈を逢しむる二道に 本堂の 當寺の久代平安城に葬所あり 桓武

天皇延暦十三年小長園よりけまよふのむの所と後人の葬所

定ある由 遷都記よりとあり 又あはれ愛宕とあり 源氏物語に桐壺の更衣は

いふめよりしてとあり 此所の末あり 河海抄より弘法大師の聖蹟として東寺に長者宮に

北斗堂といふ二六道の東武町斗小あり 北辰辰系よりて松高燈をありて

くけり 城南淀川の圓松運送の目當り常夜燈とあり 熊野に福曲み

北斗は星の曇るをて風は星之應仁の兵火ふとあり 一奉金宗松に府より

燈の影の例として答へ埋し 瑞寺僧よりとあり 上流の河津水村小橋とい

晴明社に宮川町の東松系の中あり古へは地安陪の晴明の塚あり

新道の人家返用ふ及んで次第小塚崩と平比とあり 故に地は建て具をあり

十禅師社を晴明社の南ありむらうの境地廣くして樹林木林とあり 牛あり

此林は松千軒ありと武藏坊を慶しは社あり 於て主は流れ約とあり

若宮八幡は五条橋東五町よりあり 所石清水と同神之初は六条佐女牛

小あり 故に佐女牛八幡と號れ 例は八月十八日放生あり 舊地は

沿うて正年中より 此所の

五条橋を初の松系通あり 則ちうへは五条通と秀吉公の討け所とあり 故に

五条橋通といふ實に條坊門に欄干あり 紫銅擬寶珠九石十六本ありて

小の方西より四ツ目小橋の銘あり 雄陽五条石橋正保二年酉十月吉日

奉行 芦浦 記音寺 舞典

此橋上は米より東より西の橋本は勝本河の向く 於て平安に佳きあり

蒲園着くと夜とあり

嵐雪



五
條
橋



松豊八幡宮の五條橋西へあり首途八幡と称す清和天皇御宇貞觀年中

草創なり其後皇太子貞純親王の清盛天皇親王の息六孫王經基公尊

崇りて宮殿樓門を重修再建せし封境廣大あり外封は十二門あり

新善寺淨影堂の首途八幡の西あり之代長年中極林皇女の建上りて

同基弘法大師之中興王阿上人真言宗の依りて時宗公なるを基に阿弥陀仏

の安阿弥の他あり初の本寺の信濃善光寺の如きなり 脇壇外封は十二門あり

一遍上人の像王阿上人の像と安阿上人の存あり之三尊ありて阿弥陀現音勢

至弘法大師の他則儀帝の御令持佛之鏡の池地竈井の本堂に由りて

地藏堂の方丈のあり當寺始に東洞院春宮あり極林寺の別所ありて是より善光寺中火災

新町の山より入正十又奉は地より 坊中小扇とあり業するより昔女なるを平敦盛の室蓮華

院尼公此寺に因居し阿古女扇を製する其具頭後儀帝清盛に傳へし時

當寺の信藏祐寛阿闍梨清心除滅の修法に加持し又扇に此文を封納して

帝より即位平愈はしく天皇の御所當寺と再興し和名あり王阿

上人と号する扇に古例ありて世にわたりてあり高貴に献して都鄙に貴

敬とあらり

河原院の旧より五條橋通の里落の八町四方あり此の地蔵堂 所へ馳在る會の

別荘ありて墨園水石園流に遊蕩れ美を擅する衣笠を草木録を

四時をたぬる池と敷き水と湛へ奥鳥の戲し陸奥の松浦を以て池津

より日毎に潮と汲せ管絃の仙臺に調文籍の月殿に遊びて文臣亮ありて

後寛平法皇は勝地を遊歴し東六條院と號し其後俳園とあり馳在る

三の侍は祇陀林寺の本主に康上人の知識とせめて大六に釋迦佛と作り

ては院は安樂寺あり依りて院と號し今八幡橋の南鴨川高津川の間にあり

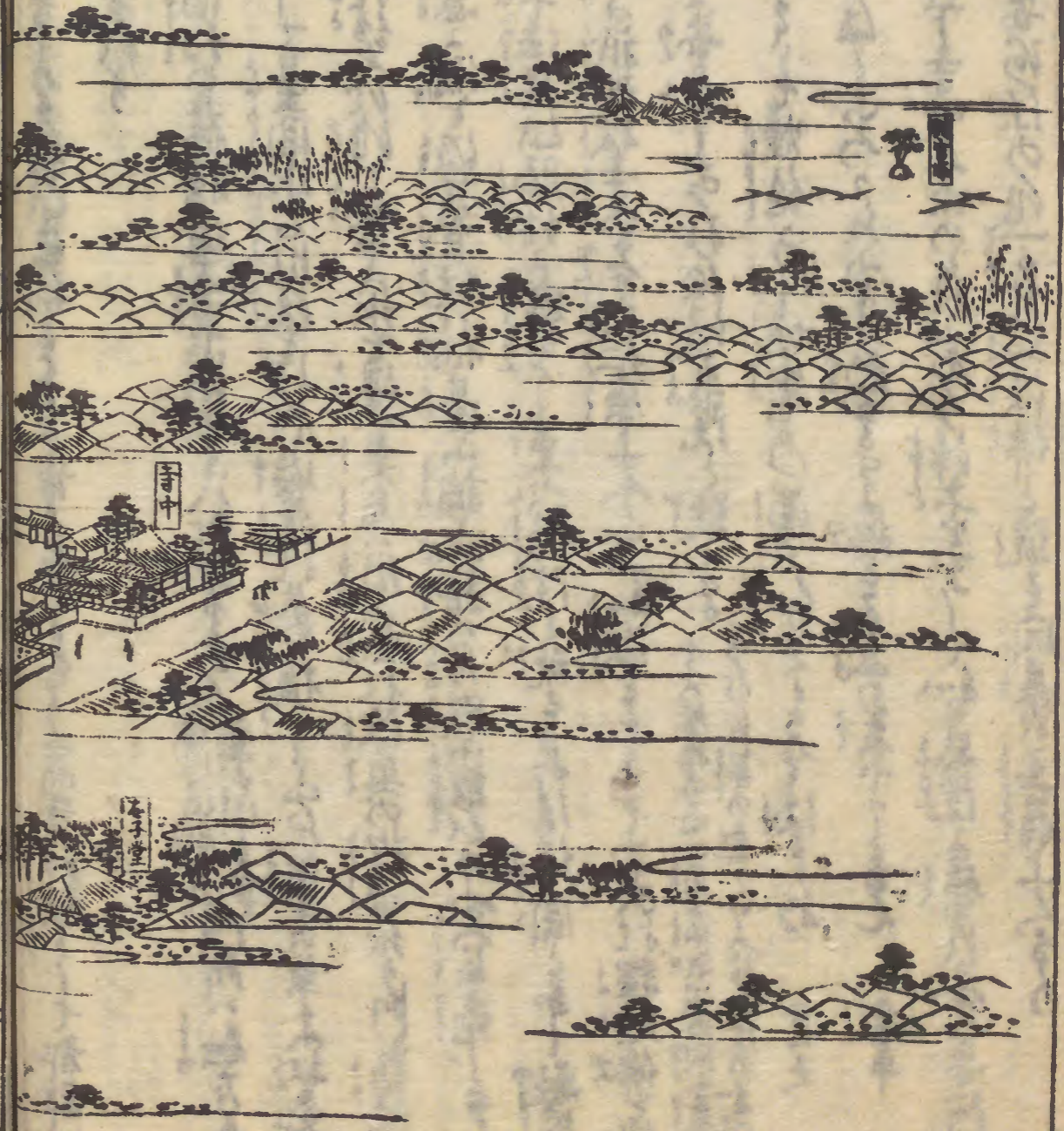
古今君より 煙絶し一壇竈乃通し今八幡橋の南鴨川高津川の間にあり 貫之

壇は一より二なり業平

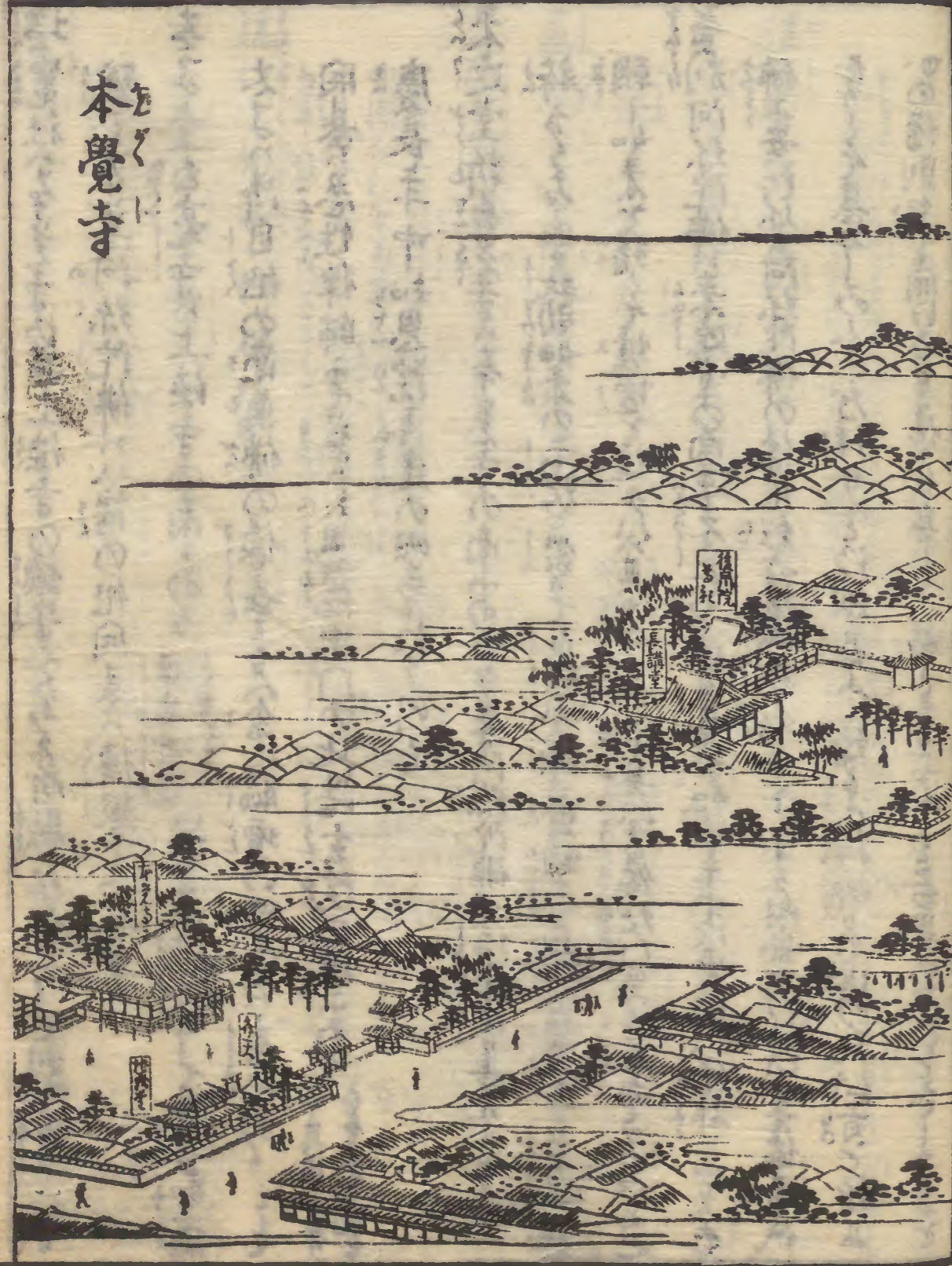
本賞寺の下寺町又糸の角あり津上京ありて智恩院と號し本尊阿弥

陀佛の安阿弥の他一名の如法佛と號し同基の玉箱上人あり

東九條
判官塚
下寺町
長講堂
左子堂



本覺寺



塩竈社のなき寺の西上徳寺の鎮守なる所駐在を以て則塩竈と
號と尊阿弥陀佛ハ八幡の代用基ハ傳譽上人あり
太子堂白毫寺ハ上徳寺の南あり 速成就院 宗旨ハ律宗なり

太子ハ清自他の南無佛の像長を人余之脇壇の四入云唐化なり
用基ハ忍性律師之舊ハ知恩院中門の北浩玄院の後あり 今其地ハ古井
慶長年中知恩院再建の時云々なり

米辻堂新若光寺ハ本寺の南小あり本尊阿弥陀佛ハ信濃國善光寺ハ一
拜する本願義助如来の示現と蒙りて百歳玉縁齊明王ハ同浮檀金三斤と物
朝一如来と銘とく爐壇と據久ハ其年中より分身ハ像ハ多ク是なるの本尊

貞別阿弥陀佛ハ米辻堂の南蓮を云々あり本尊ハ如來佛ハ東國ハ僧都云々
佛工安ハ阿弥陀佛の像ハ如來佛ハ歸らんとす耐安阿弥陀佛像希代
ありて是等ハ今ハ拜せんといふ事ハ其科御少と述つれけ古と信
一の僧則後ハ用けを尊像分身七二時と云二人ハ其異の事ハ云々

東西負つて別ハ其地云々ハ科の像ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々
馬止地蔵 此像ハ古くハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり
後白河法皇ハ長講堂の南あり長講堂ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり

幸ありて貴賤と論ハ殿内ハ達と七魂と名帖ハ記ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり
と修ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり

萬葉寺の天満宮ハ長講堂の南あり初ハ回之町ハ本寺の南あり其像ハ本尊ハ云々あり
鬼頭天皇ハ本寺の東南竹林院の堂内あり 正安二年ハ本寺ハ見院ハ云々あり

市中山金堂寺ハ時宗より本尊ハ阿弥陀佛ハ定朝の代用基ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり
市比賣社 當寺ハ其地ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり 天眞井 本堂の西あり

延壽寺ハ金堂寺ハ其地ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり
市比賣社 當寺ハ其地ハ云々あり其像ハ本尊ハ云々あり 天眞井 本堂の西あり

夕秋塚の五条あり
 今六塚町松永にあり
 源氏物語のちの夕
 うはのちい所小園
 くるういひあり

新古今
 夕のほと
 あり

白鳥此
 かさひ

とんころ
 みものこ
 はのくみへい

夕秋の花

前右政之能



離の池の高倉五条の南宗仙寺の堂前より井とく、舊河原院の封境より

其遺跡より昔寺の曹洞宗よりて園基の天江和尚 本堂の額に
正水あり

藍染川の五条高倉源経て向之町より人家下と南溪の瀧水より 深も河原院に
深も河原院に

花開指荷社に松永通高倉の西より 指荷町に
指荷町に 所は松永貞徳公羽居所より

俳書所傘板撰と

古宅を春といつる板五条花開の家より川まで 貞徳

おののうら海坂門の松のみとあれなる宮社をよめるの非 貞徳

五条花開の宮の會より夕鳥の夜 貞徳

小車れせいのつれとらとありしゆとせとせと 貞徳

久条の宮を七差想指荷の社にあり 貞徳

各人のいそとたの陸まては所むり 貞徳

とこそいひゆらぬとあまのちい 貞徳

日 美代と川のやうに花をたのめしとれとあり 貞徳

俊成郷の社に松永通高倉の南宗仙寺の堂前より井とく、舊河原院の封境より

千載集とていひゆらぬとあまのちい 貞徳

後末を我とも思ふとあまのちい 貞徳

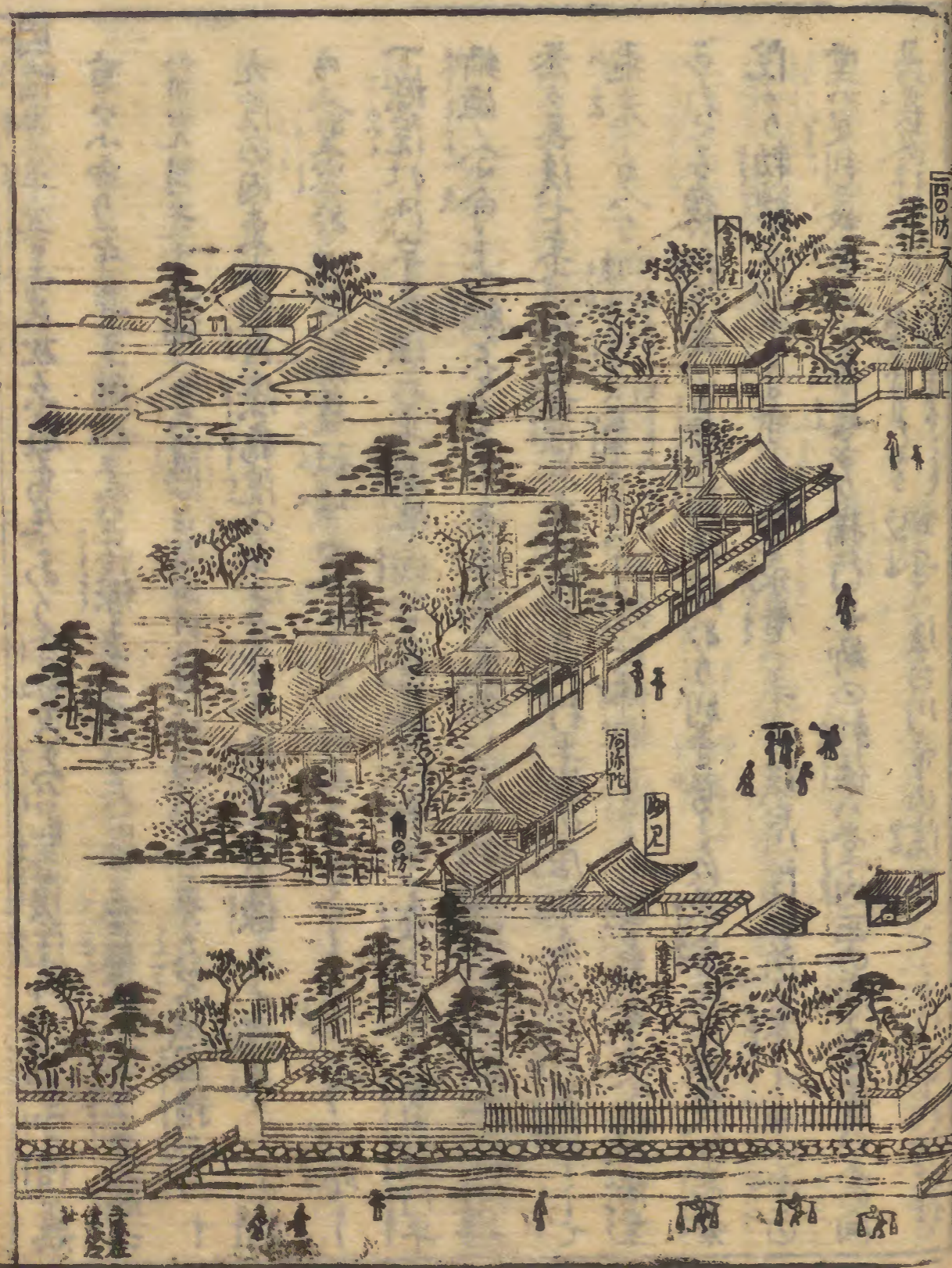
俊成

佛光寺



丹谷山佛光寺の五條坊門通ある初興寺。宗貞親鸞聖人の弘法して佛光寺
依り移る本堂より岡山親鸞聖人自化の淨教を安んじ建つて阿弥陀堂なる
多像の阿弥陀佛と安置長久。善堂大師の依りて宗貞後醍醐天皇の御代に
盜賊寺肉に丸入し尊像と集ひ遊りしとも重くとも論方なく二条河原に投棄せ
去ぬ其夜より瑞光を放て帝國を映照し百官をねらひし帝光の御光を
させのふ阿弥陀の光明より勅使發し尊像依帝奉り宮中安置其後興正
寺に遷座し寺号改佛光寺と改て勅額を賜ふ又宸筆を添はれて親鸞聖人の
繪詞傳と書しゆし事修念佛の棟梁と論旨を賜る阿弥陀堂の脇壇に八聖
徳とて自化の本像法然上人自化の像と安置し餘間と存覚間とを平願寺
第三代堂如上人の息存堂上人の寓居し六要抄四部九帖等を撰しゆし又
當寺の草創親鸞聖人四十歳の時に別と辨郷東野村に建立し興正寺と號
し徒弟の上足眞佛上人の附屬し其後五条西洞院九條殿下兼實とて別莊
花園亭と聖人のお附し花園院と号し興正寺に院號とを置り九十四代の帝花園
院の附屬

興正後醍醐帝の清寧之應元年小當寺と改て今比叡竹中麻汁谷お移と
改む阿弥陀峯依限り西柳名小至り今七条の東南へ菅谷依限り水け谷大橋小
至り其後足利尊氏公の祈願寺とて佛供田と寄附しゆし又平願寺と號
し尊信の僧侶諸國小充滿し塔頭四十八坊乃至り然り文明年中當寺十世
の住職經豪上人の辨本願寺蓮如上人の附屬し寺僧四十二坊具外國の口徑
教輩隨順と故に經豪上人の舎身經卷上人當寺の住職と十四世に相傳
し所在の六坊
今寺の秀吉公の附し佛殿建立ふたり七ヶ地に移と
四條立賣の四條通東洞院と改てしむりし大内裏の附し所法品派南へ市
場と今毎朝高倉四條のゆこ
野草の市に附し所の修光
神明宮の綾小路高倉北西よりありたる所併勢内外を神宮とす
大原社の綾小路新町のよよりありたる所併弊冊尊とす丹州兼田郡大原社
は神
膏藥道場とすしむりし四條の南新町と西洞院の間より今膏藥ははるしむり
白天神社の東洞院一為丸の間より竹之辻よりし法香たし號と



因幡堂平等寺の松原通馬丸の寺勢を天台聖護院の住持僧眞
言宗あり本尊蓮師如来の立像を長一人二寸基盤の上の五の願士
の日光月光十二神八菩薩と安坐の傳記は白の本尊大空祇園精舎四十
九院の内東の角棟の院の本尊の御檀本の像をして釋尊の御刻
の聖容ありかの伽藍破壊及んとするの耐東方うて飛去り人然り
一條院に所長徳三年因幡國賀露津に海面に夜夜之の國司攝行平
郷漁人ふ命して網をもちて海を泳潜しむる光明赫奕と業師の引上
奉り其後七年成経て長保五年四月七日に行平郷の居館馬丸高江の良坊とて
飛去りあり後光聖座の因州に止る則館に佛閣を造りて安坐しあり今因幡堂
あれを預け行平郷の息光朝禪師あり別寺勢と兼安元年四月八日高倉
院より勅額をのり平等寺と號し永曆二年に後白河院に所奉りあり今の
堂は足利義教公の再建あり攝行平郷の教像の堂内西の間に安坐の木の同
具衣及び安ん後堂の井戸あり鎮守は後白河帝の院宣ふよりて十八所は社と

勅請に後社社説ありて燈籠観音堂の本尊は慈覺大師の他愛深明王
弘法大師と堂内は安坐の攝堂の本堂の西ありて常に淨蓮と張毎年二月初
縁供養あり一日といは日に執行藥王院より人黒人と安坐當院に祇園精舎所好
二月七日は所執喜天不動明王と安ん將井社と慈覺の楨の坊柳坊より楢為水室杖葉に
社とあり又虚空藏と安ん西之坊より金毘羅と安ん桂方院に楨為
社あり又不動役行者と安ん長伯寺に裸形阿彌陀佛と安ん長徳大師
二條院の預小なり女人成佛の燈籠なり人金堂の阿彌陀佛の寺の
化有り不極警預寺又粟の明神妙見并安ん角の坊より楢為大明神鑄なり
又當寺の本尊は日本三如来の信濃信安寺具一りて釋尊五世の尊像と
御戸開ありあり勅會は法事音樂等ありて嚴をとり代々天の所厄本
ふありせり一年に毎月勅使系向ありて所祈禱あり是と兼師借くふ
敏業曰は高辻新町の東ありあり所辨賊天女今真言の傍當社門工則町
の春分神は九月廿日と

因幡堂平等寺の松原通馬丸あり寺勢天台聖護院所門主寺僧真

言ふ所の本尊兼師如來の立像あり長六尺一寸基盤の上は五尺八寸服土

の日光月光十二神八菩薩と安坐伝記白は本尊大空祇園精舎四十

九院の内東部の角濠病院の本尊等も梅檀木の像あり釋尊の寸許刻

の聖容ありかの伽藍破壊及んとするの耐東方より飛去る人徒り

一條院は永長徳三年因幡國賀露津に海面を夜々之あり國司播行平

郷漁人の命にて網をかくる海を夜潜りびや光明赫奕と驚怖ゆ上

奉り其後七年成経で長保五年四月七日に行平郷の居館馬丸高は包務とて

飛去るあり後光聖座の岡州に坐し二座光射と号し今あり則館派佛閣を造りて安坐あり今因幡堂

あれ之を願行平郷の息光朝禪師あり別寺勢あり承安元年四月八日高倉

院より勅額あり平等寺と號し永曆二年は後白川院は所を幸あり今今の

堂は足利義教公の再建あり播行平郷の親像は堂内西の向に安坐其木の向

に六夜及び安ん後堂より井戸あり鎮守は後白川帝の院宣ふより十八所は社と

別清の後社記ありし地記観音堂の本尊は兼覺大師の他愛深明王

弘法大師と堂内は安坐其後播堂の本堂の西にありて常に伝連と張兼三年三月

縁供養あり一日は日に執行薬王院より大黒天と安坐當院は祇園所好

二月七日は所歡喜天不動明王と安ん將井社と慈尊あり撫の坊柳坊より箱箱水室杖堂に

社あり又虚空菩薩と安坐西之坊より金毘羅と安坐桂方院に橋原

社あり又不動行行者と安ん長伯寺に裸形阿比陀佛と安坐其長

二條院の願小なり女人成佛の澄小なり金堂よりの阿比陀佛は五日の

化あり系極誓願寺又粟稻明神妙見神と安ん角の坊に稲高大明神鏡堂は

又當寺の本尊は日本二如來の信濃居士其一より釋尊五世に尊像は

御戸開ありぬい勅會は法事音楽等ありて厳をとり代れ一より神厄本

小田守あり一月に毎月勅使系向ありて祈禱あり是を系師借とい

叙業日社に高辻新町の東にありなる所辨財天女今真言の傍當社門正則町

の産母神にあり九月廿日と

朝日宮の白通朝日宮の白通 五条の山あり系所天照を祀り清和天皇の御宇貞観年貞観年 休

丹波國桑田郡穴生村に造宮し其後正親町院御宇元龜二年元龜二年 分れ地

小遷座小遷座 十六日 猿田彦神石猿田彦神石 飛梅天満宮飛梅天満宮 本社六ヶ所の内ありを奉 飛梅の

神明宮神明宮 二箇小治八條にあり古此も六融大臣の殿舎に封境し其地信誓を許言遷

拜所拜所 後世より社を建後世より社を建 今言はれ侍り

諏訪諏訪 二五條の南二町後坊町あり系所信濃國飯沼社飯沼社 曰神なり

新玉津嶋社新玉津嶋社 松原通玉津嶋町あり系所衣通姫衣通姫 して祀別玉津嶋といはれ後成

の幼造幼造 冬冬 十一月十二日之 為家ら若年の附社附社 五月六度

たのむのね我ららけ非くらけん初初 玉津嶋玉津嶋 前太政大臣

菅大臣菅大臣 社社 五條坊の西御院あり系所天満宮ありて則菅原是若郷の館あり系八月

十六日拜殿拜殿 額額 玉津嶋宮玉津嶋宮 書書 竹内門竹内門 師良師良 天満宮降誕之地天満宮降誕之地 八分多の石表あり書

誕生水誕生水 本社南の垣の内本社南の垣の内 大師堂大師堂 三々所自他の材本社三々所自他の材本社 迎幸迎幸 上念家上念家 くらり

北宮大臣北宮大臣 菅大臣の山門ありあり系所 常喜院常喜院 北宮大臣の西隣り荒木天満宮荒木天満宮 堂内堂内 あり

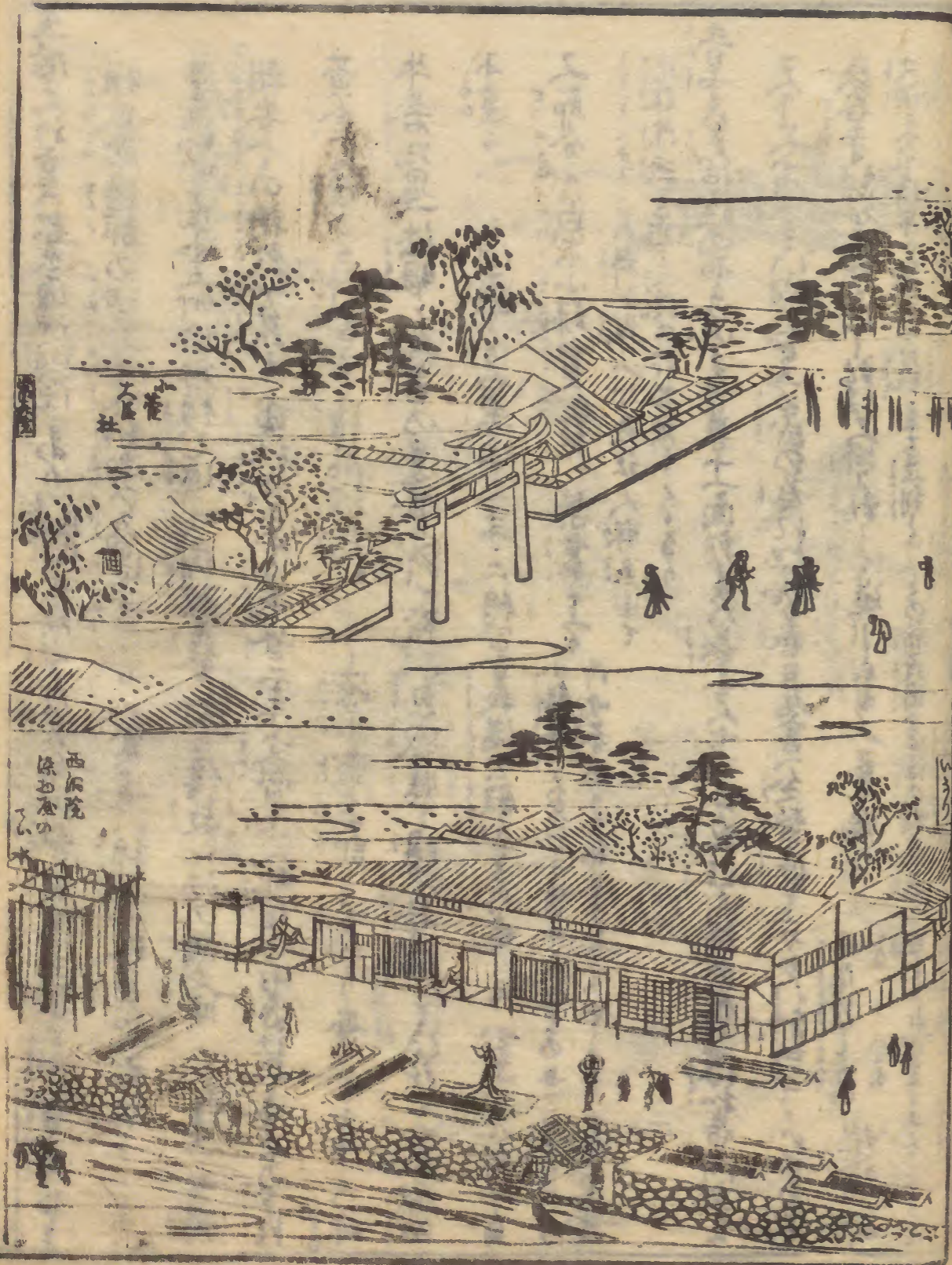
新玉津嶋社



新玉津嶋社
奇合小神祇
玉津嶋

の
の
の
の
の

前六僧正
光徳



西院
深田

菅大社



五條天神宮の松東通西洞院のあり

桓武帝遷都の初平安城鎮衛の為造宮の

東西四町南中五町の神領之巡

朝安令の祈禱を為す

黄金を埋ぐる計畧を之

牛若元鬼法眼と兵書の遺恨

小邊のい

入即分の白木小鉢賣

厄難除滅

立音寺の天使社の西隣

天下を小疫といぬ

長谷寺の

文徳天皇



五條天神宮
一音寺



新住吉社の醒井通高辻の角ありを所拾別住吉明神に後成り初住り
 荒神社の醒井高辻の山ありを所拾中標別勝尾やう初住り
 此社水西洞院四條の南あり
 藍染川より小野小畑より流るる所あり
 小松内府重盛別業と室西条の南西側あり
 秋恵比須社の猪熊通松原小ありを所拾子神
 天道社の五條坊門松原の角ありを所拾日月の神あり
 御志乃松の四條松原の角ありを所拾源義経は松原をたけし
 石神社は石井通二条の南あり
 東直寺の四條通宮の西ありを所拾
 勅取のひを松原の角ありを所拾
 土師神社は石井通二条の南あり



あたごまのりの
 まぶねを
 わたれぬかき番あり
 桶とり 花盗人
 紅葉箱 後
 愛宕石より狐はと
 やうらかり 結
 衆之入 盲人川後
 節分 花足
 猿引 燧角力
 餓鬼責 若衆
 このころ 搦まをり 性急坊主
 巻坂 養生門 湯立
 あつこの人 男伊達
 搦まをり

壬午の大念佛ハ中興の
 岡山圓堂上人より
 始り毎年二月十四日
 十日十夜本堂におきて

修りとい念の中
 後の夜を成ると
 るの夜無蒙昧
 の華勝縁依
 徳とてめくま
 授の道ふくえ
 がための方便
 るふ



捕とらゆとらりりれ
 狂言

壬午寺ハ五系防ハ本堂東のり宗首ハ言律うて和別招授も一編ハ本尊也

甚ハ薩ハ坐係長一人うて定朝ハ依之雷寺の草創ハ源院即宇正曆二年うて

用基ハ三井寺の快賢ハ僧都也然ハ藤氏ハ東田國通兼公の支族なり智證ハ師ハ

地藏の尊係彫外ハ志願と授佛一定朝ハ命して十日ハ同一依り終り相ね

圓備とて恰生身ハ向ふ如ハ多田の奉るこハ持物の揚仕ハ慶元日本並ハ四

方源くして異香薫ハ音楽出ハ因て聖衆奉持の如ハ牛井外ハ五人ハ漸き暗

本尊と拜といハ復修してハ福の揚仕と持りハ本堂の修修ハハ揚仕ハ釋尊

伽羅陀とて延命地藏經と説り府中より出候とて寺の音重寺の最初の草堂と

いなる依女を依り私二年ハ堂供養の如ハ三井寺と異ハ其後ハ源院即宇正建

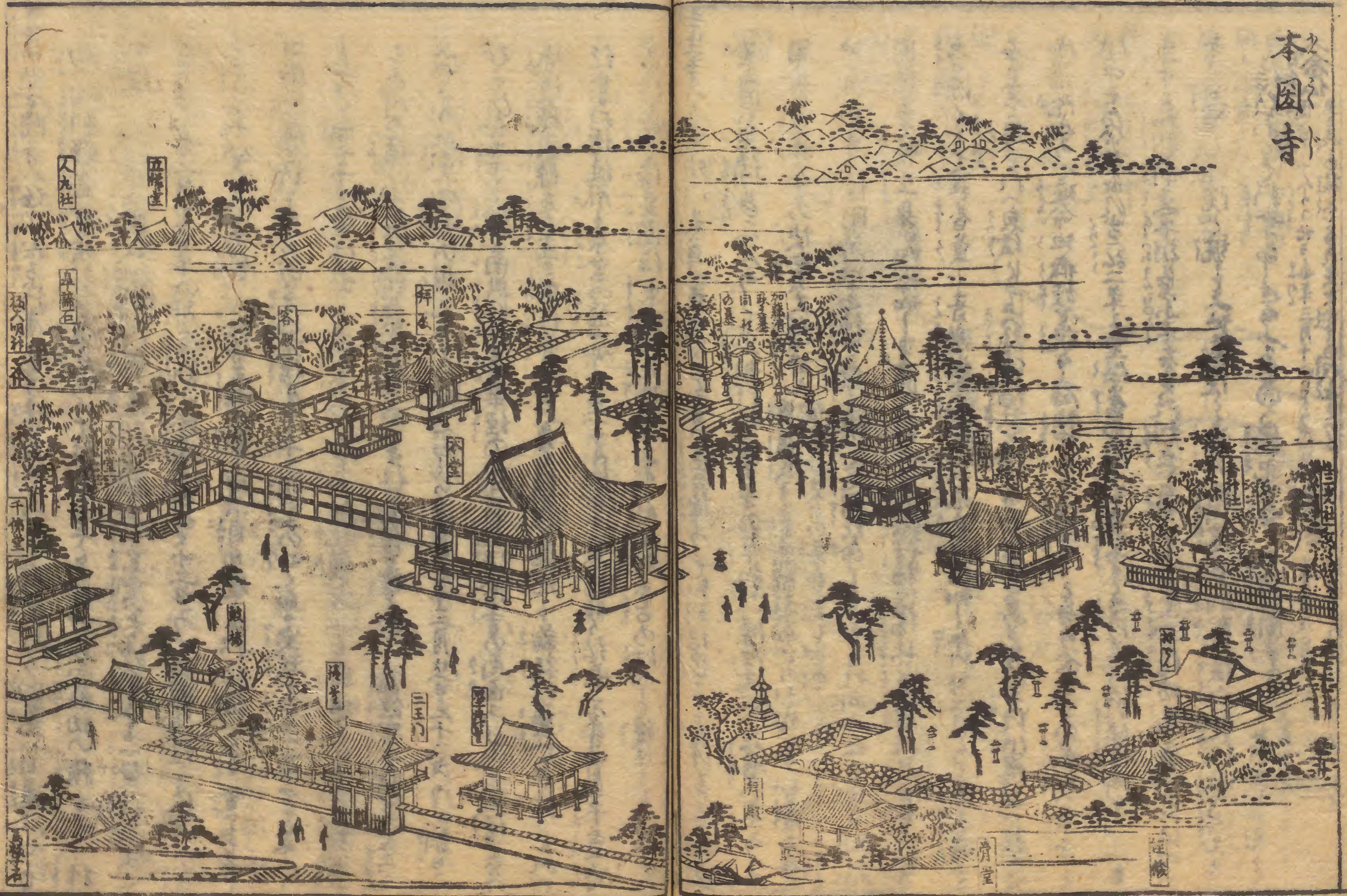
年中ハ和別前史半初ハ本堂本堂ハ利益ハ聖堂ハ聖堂ハ聖堂ハ聖堂ハ聖堂ハ

寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ三井寺ハ

信教のりて和堂ハ也ハ和堂ハ也ハ和堂ハ也ハ和堂ハ也ハ和堂ハ也ハ和堂ハ也

大念仏圓堂ハ一人ハ始り毎年三月十四日ハ十五日ハ壇供毎年正月ハ和堂ハ也

本園寺



大光山を園寺の堀川松原に南あり法華宗ありて一致派なり因基は日蓮上人と
初相別鎌倉松葉谷に遠立ありて法華堂と名付け一宗最初の精舎なり抄
日蓮一人姓は三國氏 聖武帝の御影 六遠別の刺史實名重実次男なり母は遠立の
貞應元年二月十一日午の刻に房別小僧浦に生れ十二才ありて同國清澄に依り
と學し十分才を修め名は是性と號し後小日蓮と改む初推しりて賢くて常
に虚空藏を祈るある夜の夢に老僧を奉り小日蓮の如くある宝珠を奉り授けり是より
してと聞て十と悟りてかて諸家つづる南都北嶺つづり園城入て法華宗を
をあらめ信法宗の義判家と敬しめられたる後法華宗の諸法中王最尊の金三
ふつろ衆生成佛の根えりての法とありて建長八年二月廿日二十才ありて
ひのし合掌し始て南無妙法蓮華經の七字と唱清澄寺の南面ありて一の僧具外
守後職東條九金五宗信等とありて法を傳はせり論教は議文とありてんが
法宗の僧徒風を本宗の隨如く是より流布の盤錫なり弘長元年五月平重時
ありと如て伊豆國伊東浦にたせりてありて相別庵口の汀にて終せり

數華に座すありて天候ありて震動したる力取眼くくを劔眼にこれより相傳ふ
ふふ發死ありてありて文永八年六月佐佐木宗茂のひよりありてありてあり
々し救免状とありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
敬上人の文永十一年八月に鎌倉松原に甲別身延ふふて艸菴と結ばれ相別
張折て佛供 杖のくありてて經書を照しありて夜は雨の念ふありてはれあり
年ハ邪ふありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
後宇多帝御宇に文永十一年十月十二日威儀後住に法華宗神宗と遷化ありて
鎌倉松葉谷に法華堂と日明小僧一合印ありて住し日靜の時勅願所なり負れたる
光明帝の勅ありて相別鎌倉松原に法華堂と日明小僧一合印ありて住し日靜の時勅願所なり負れたる
本堂は法華經を平尊あり 日助僧都一 立休堂に釋迦佛と安置あり 日蓮上人の御影
方丈は法華經を平尊あり 日蓮上人の御影 日蓮上人の御影あり 日蓮上人の御影
泉諦石 日蓮上人の御影 日蓮上人の御影あり 日蓮上人の御影

佐野の井も
 醜井三系乃
 南ふのり井
 小銘あり
 佐女牛井
 元和二五年
 有樂再建之
 足利將軍
 茶通
 今川用
 草履
 石礎
 寒泉
 泉湛月明
 出たのほね



本願寺の西六條小あり宗有親實聖人の弘法なり
 聖人の傳 勅許草創
 植髮教堂の所あり
 當寺に草創

龜院所字文永九年聖人の息女覺信尼公
 回野方衛門佐
 勅之家之松東入谷

始て廟堂不遠を
 岡山城後
 十一年の賞
 龜院勅預所にて龍合の本願寺に號と揚ふ身二代

如信上人
 用之嫡孫と善者上人の
 息ありて覺信尼の標
 其頃貞別大綱郷小居に故覺惠法師
 度綱の子あり

覺如上人
 大谷の留主職よりまゝり賞如上人財三世依繼て後伏見院正安元年

に勅預寺とて論旨と賜ふ身八代蓮如上人の財を授ふ聖昌宛園に在る世に

ころと門の衆徒あれと如て實正五年に當寺と破却して寺門三井の庇凌り蓮如上

小高橋に近松寺依寄附し聖人の教儀依のに移せまれり蓮如上人の小園依經

圓に敏前右佛の所堂と營北陸七別化を其後文明十一年と別小掛郷小教堂

と建平身九代實如上人の叙衣と揚身十代澄如上人の財所堂と拾別大坂石と

十代頭如上人の財三品親王の勅書と賜り所門跡に號と勅許ありて又所堂と紀別

聖昌林のりて遷正安九年八月六條堀川に移す
 去信長記
 拾遺あり

本堂の岡の親實聖人自伝の教儀依安を
 信尼公のりて聖人の教儀依



西六條

本願寺北御門前

樹して深ふろし影狐洞をせり故は骨肉中程と移り坐儀うて長か入す修て入す堂入るを中
 極寺のこつ紫衣殿拜儀くつ所堂造り紫衣殿の模取と堂前の高味の肉製は日一

南山の脇壇の北前住大僧正具外歴代の書像と安仁餘回小九字十字の名號

安仁寂如上人の筆之毎年報恩講七晝夜の法會より阿彌陀堂を尊阿彌陀佛と

名像長三丈餘りて春日の祀あり脇壇の小六高祖聖徳太子法然上人の畫形

安仁常門の法如上人の書集會所法舍執事の尉轉輪藏一切經を藏む類を撞鐘堂舊は

由縁隆隆寺にありて少納言信西入道の銘あり由縁隆隆寺にありて少納言信西入道の銘あり鼓樓いたを鼓入大和國西大寺ふありて

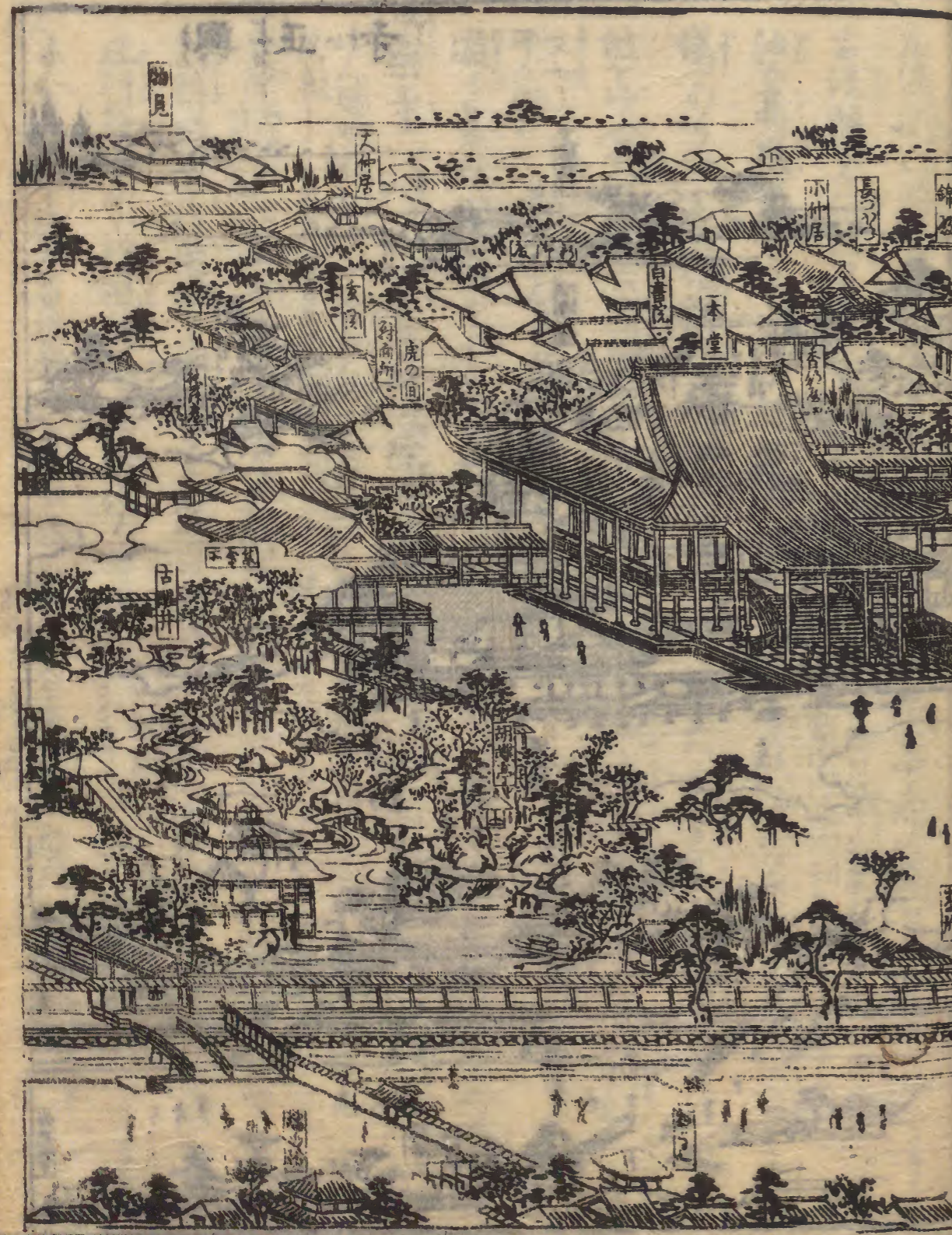
唐門南の築地長はありけり唐門南の築地長はありけり對面所大徳回し虎間走獸等の彫物莊嚴花よりて希代の奇也

白書院小徳回し黒書院西の狩野探幽の筆より具外國雕照繪春

館永安館桃仙館等殿舎高岡より繁華中のまれば暗は丈仲居

臺所伏見城より唐松天長元の條あり滴翠園集會所のまありて

高橋と飛雲閣と號は之代秀吉公の財聚楽亭あり



本願寺

興正寺



九條白尚實公の所筆之園上の画の霞に富士中園の画の三十六哥仙といふ

古法眼之信れ筆之下を詔賢殿といふ 飛雲園の記の殿中の東より十六世信如上人の所
他より當時の法如上人筆の條あり

池の高樓双巡りて常小龍池はひまらぬ滄浪池といふ龍背橋なるを踏む

場わりのいそぎ櫻樹をあり胡蝶亭の傍に夜光石あり嘯月波の池の

波より黄鶴堂の高園の西の所湯殿の醒眠泉といふ古醒井といふ 治承七年の
文如上人の
碑の銘あり

遊華林園小同りて鳥獸會魚舟の川ありまといふ親の芳園なり

常樂寺 西平後寺 本尊阿彌陀佛の春日仏 立像長
八尺 用基は管上人 本尊の
受如上人の
文如上人の
碑の銘あり

興正寺 西平後寺
の南隣 本尊阿彌陀佛の安阿彌の仏之當寺の初めは祖親聖人四十歳に

庄付谷まのの醍醐帝の所給の寺あり 委巻首
十四世聖上人を
如上人の
文如上人の
碑の銘あり

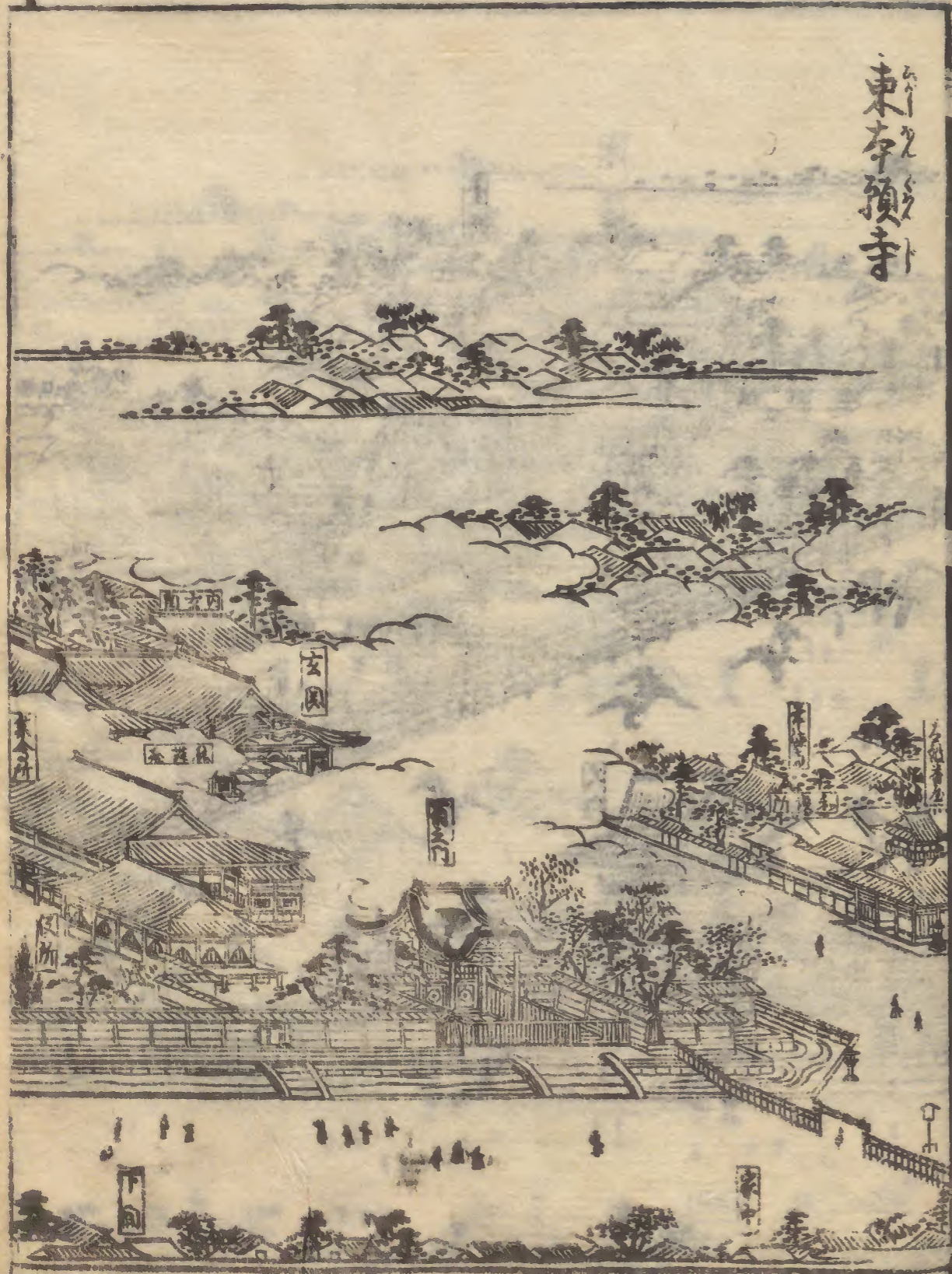
上人を帰依し仏を奉じて朝堂を建て回廊を用いて興正と名づく

十一世聖上人の如上人の

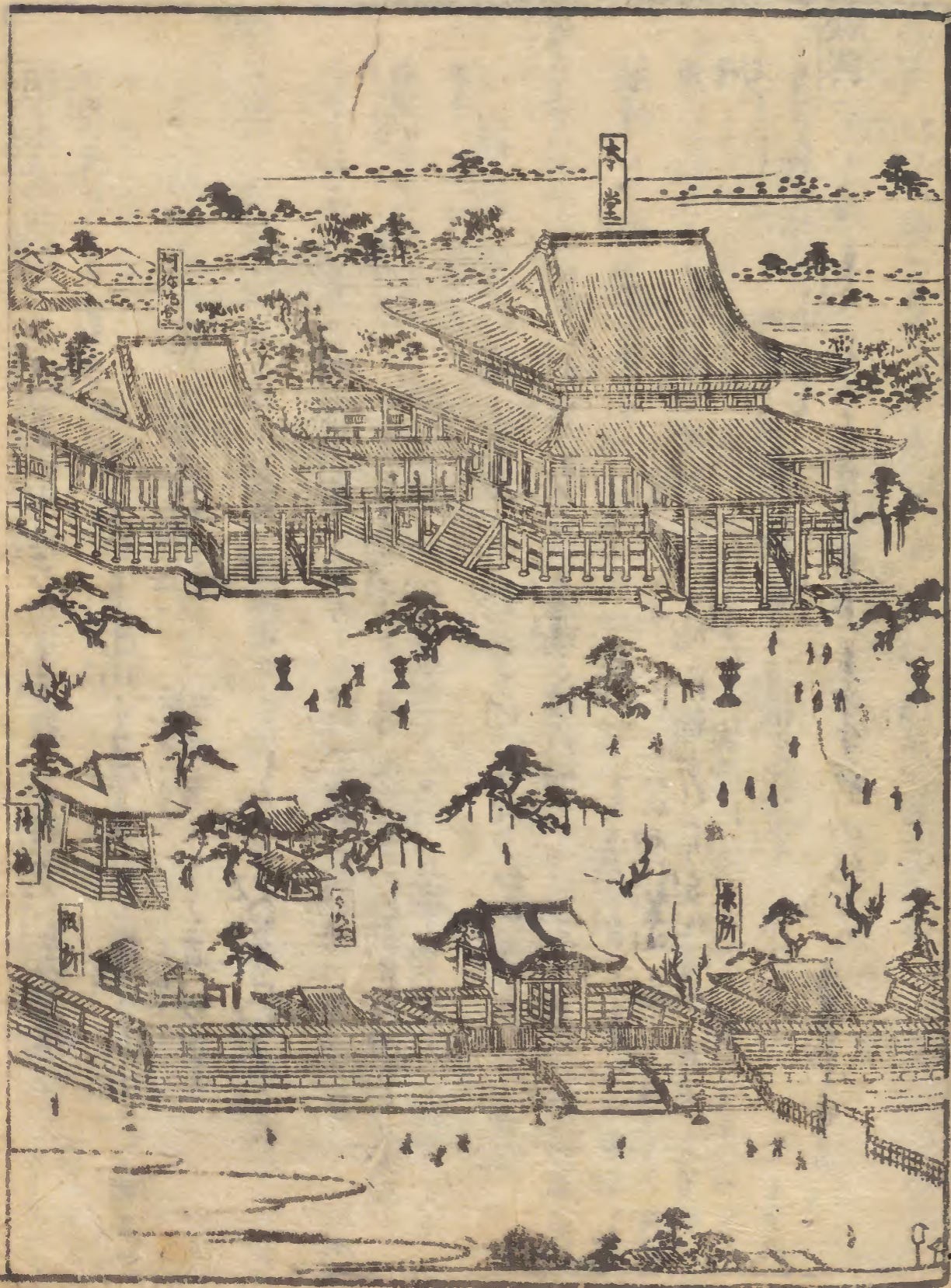
如上人の

如上人の

東本願寺



寺本願寺ハ鳥九六条の南小あり宗省ハ親考聖人の弘法して用ひり身十
 一世顯如上人の嫡子教如上人慶長七年園東の 台命坂蒙りて六町四方に寺
 地取揚り新正堂と心しり寺本願寺御門跡と称し宗祖より十二世の血脈
 派相續於本堂ハ親覺聖人自依れ像と安置凡 坐像より長七尺餘の像あり
 脇壇ハ前住大僧正真外歴代の畫經と安置條間ハ九字十字の畫經と
 あり用ハ聖人の筆なり阿弥陀堂の在尊阿弥陀佛ハ安阿弥の他之 坐像より
 脇壇ハ聖徳太子法然上人真外三朝大高僧ハ畫像ハ安凡 大門 坐像ハ阿弥陀佛
 の坐像ハ 菊門 大門のハあり初ハ秀吉の壯觀ありて供ハ佛ありみの華小菊の大門之
 坐像ハ 阿弥陀堂の門 ありハ伏見城中の井ノ 撞鐘堂 伏見城中の井ノ
 桶より長七尺 寢殿 大敷向と号ハ 小寢殿 小敷向といハ画ハ 白書院ハ書院の間
 幅三間の一枚板ハ 小鷲の向ありハ舞臺ハ集會堂ハ西あり具外殿園堂舎等ハ花飾法はく
 して化粧小膳と号ハ繁りてありハ略に
 東殿 台命小ありて増地取揚り東本願寺ハ別館と号ハ舊ハ所と



河内院の旧跡にて比叢の出流九重塔あり是州融之臣の古墳なり
 境内の溝池下寺町万善寺 池水東の高津川より流る常流谷より水と獅子
 臨地殿の庭小庭遠別れぬり尾足寺よりして真妙なり

炬火殿七條鴨川の西より倉指魂命と風神と保志と天智帝此物傳之橋高れ本

れの日神儀臨幸の時七條河原よりかみくた明と照し汗漣と仰るあり此社の

舊例にて此の事なり 當社の舊記長三年二月神詔より七條の白木河院の東に建立し 其後應仁の乱鴨川の西七条の山に遷し宝永八年今此地より

稲荷の六ヶ所一ヶ所を七條の山と申たり 貞徳

金堂寺七条間の町に竹當あり七條道場と稱し時宗より本尊河内神代尊を

脇壇の二遍すの儀あり いすの儀は伊豫國河原七条通より通るなり初唐通度が

通るに八幡殿と大に奉りたて置りて斬りてより奉りて御座りて不轉乃

僧とあり時建長年中に始に台敷と置りて又無形に御座りて示れを奉りて四つ

文と置りてありて時宗と奉りて佛に法橋定観を定観と奉りて今も奉りてあり

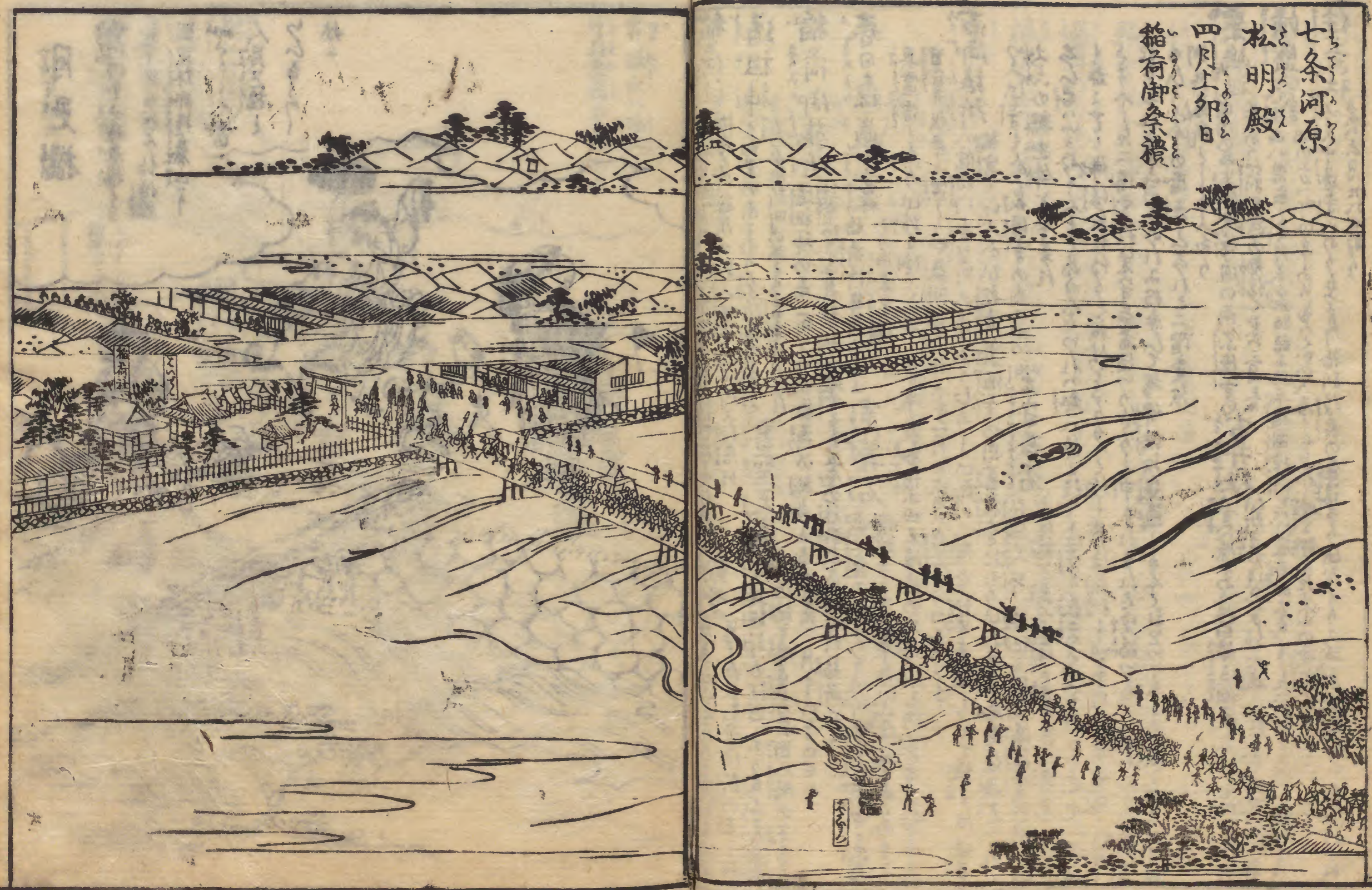
依興寺九條馬丸あり本尊觀世音菩薩大阿彌陀佛の他なり 法陽初遷るの

東殿

東を鎮守別荘
 あり俗に百石
 屋敷といふ



七条河原
松明殿
四月上卯日
箱荷御祭禮





芹根水の橋
 生れ在る橋の南あり

融公千載宅
 今見石泉清
 若使陸生品
 南零應競名

寛雅公



月見橋

橋川の南に疎屋橋あり
 吾々の今又人の信
 國更林那後處より

人月見橋と
 ついでるう
 かな



稲荷^{いなり}津^つ旗^{はた}

東寺





遍照心院



八幡と教王護國寺秘寶傳法院東寺入尼寺大宮北西八條の南より真言宗の
源より用祖の弘法大師舊址地大内裏の鳩臚館より来朝は寛容と偽る
漢朝の鳩臚館は空三藏三藏給く精舎と宮一真創創准して弘仁四年たふ成
空海空海給ひ右寺に守教小幡小幡弘法大師の諡別多度那摩風海の巻りて
光仁帝寶龜五年に誕じあり十八歳して大空に至り志佛經ありて遊り出
家して延暦十四年東大寺の檀小のほり具足戒とけ多成空海と改む
りてお別高市郡久米道場東塔の下之大毘盧遮那神變加持經を得
るる文議曉しつらん延暦廿二年八月入唐して唐は貞元廿一年二月十一日
青龍寺の慧果阿闍梨阿闍梨の經の奥儀真言秘寶とほく今同元三年十月
歸朝して傳來に密法弘むあり阿闍梨を勅ありて因裏おありて諡宗乃名
僧とありて空海空海ゆめくあり所は宗義と論せとありて空海の曰我宗は
變は真言一に阿字を依りて即身成佛とあり諸宗はふまんとやうに論論
とほくありて弘仁帝空海は即身成佛とあり勅ありて弘仁五藏三摩地

觀入息首より五佛の寶冠とあり身より五色の光明と放ら面貌金魚とて田比盧
迦那佛とあり帝の御座よりくありて諸宗の僧の合掌してたふくありて藤原
ありて弘仁元年日々に弘仁七年に紀別高野を編て金剛峯寺を建立仁明天
御宇承和二年二月廿二日廿二歳して高野山入定あり其後延喜廿二年に弘法大師
と諡弘法下あり日本小生先不思議の人一人あり生ありて死するは空海
金堂本尊の宗師佛脇土の日月天なり焼失の後講堂本尊の太日如來聖體の
等々不本尊の千手千眼觀世音聖體僧正の他なり脇土の地藏觀世音天女
夜叉神本尊の夜叉神とあり大師の所なり五重塔四仏あり
八幡宮大師の神を拜して彫刻あり八幡社當寺建立必前の
寶藏大師の法を藏む瓢箪堀寶藏の南の池なり南大門二階の門あり
西の門西の門あり慶賀門東の門あり蓮華門西の門あり
猫瓦異の方の築地の上ありは築地造營の用なり

西院同祖弘法大師の教を安んずる 法眼康勝の他あり後堂より大日不知なる

大黒天 西の院の傍より安んずる 愛深明王 安んずる 五寶石 後堂の白砂より

三鈷松 西の院の傍よりあり大師唐土より帰朝のときに戒密教相殿の傍あり

松子房松 西の院の傍よりあり

元弘三年五月六日所収政府の録に依りて新田義貞

後醍醐天皇則入洛あり播磨書寫しとて新田義貞

迎奉する由り勅額ありて東寺へ御奉安あり

前二條正頼意より依録に

植桑むらやうを築かんて此所桑を松風の音

羅城門の舊跡に朱雀通 今の千本 四塚ありは門に植武天皇を平安城造宮の時

初て建つたり大の裏にありて外郭に惣門あり 樓上は毘沙門天を安んずる

今東寺の教 ありて

梅嶽録曰 都良香所蔵に依りて所収新柳髪と録

萬祥山大通寺遍照心院八條柳首小ありは此の源經基公の感舎ありて

天徳五年小薨じの後は所置靈廟を建六孫王持院と崇奉り具後録

倉右大臣實朝公の後室之位禪尼大檀越とあり真空律師派法して

開く戒律之論真言等兼学の梵刹とありふり

佛殿 本尊阿彌陀佛 本地堂 興教大師の坐

六孫王社系所へ經基公の神靈之源氏の祖神とて 御當家此遺堂あり

社前二法候より奉納の石燈あり 神廟 本社の後 貞純親王社 本社の裏

神龍池 社前の池なり例系より 辨財天社 長き五寸余 誕生水 源清仲公の

阿彌陀佛 立像長二尺五寸安河孫の他より親意聖人乃持

寶冠釋迦佛 方丈より 實朝公の教あり

方丈の庭 庭中松あり

満仲公誕生地 八條通大交の西よりあり 歡喜木 寺院の回廊あり

福大明神森 由未詳なり





鴻原領城町の朱雀野にありは新上古の鴻臚館の地より中頃の觀音寺院
 の封境より西口の畠にありは堂の口より又領城郭の万里小路
 二條の南方に所あり真先の東に殿 義政 遊喜の地より天正七年
 左衛門林又二郎より入浪人上訴より領城町と免許せられたる郭と
 一町に地を新屋敷と號し又柳の雙樹の地を柳町と稱せられたる
 也 貞享十一年と歴て慶長七年に六條より今の室町新田西洞院
 五條橋通の南より方々町の郭の中より六條通のりより二石助町と號し
 六條通あり 西洞院川より石橋の領城町の入りては此の地初より今より
 町又条の南西側臨匠の居を異名ありいぬの志ハありて今より
 又寛永十八年ふ今の朱雀野へ移るは源系と號するは貞享肥前の
 源系より天正十四年より一掃の地と稱せられたるは里より
 今より騷りたる世の人源系と異名はけりて遷居は所のりあり

